

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	国際学術会議
	英	International Science Council (略称 ISC)
	団体 HP (URL)	https://council.science/ (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 7 月、自然科学系の国際科学会議 (ICSU) 及び社会科学系の国際社会科学評議会 (ISSC) が統合され、国際学術会議 (ISC : International Science Council) が誕生。 ・ 統合の背景：世界の学術界を取り巻く環境として、①「解決すべき課題の地球規模化」(例：気候変動、生物多様性、海洋ゴミ、貧困)による学術界の国際的な連携の必要性と、②「学術分野間の統合(学際的アプローチ)」、更には「学術界と社会の連携(超学際的アプローチ)」の必要性。いわば、「孤立した学術」から「連携する学術」への移行が必然となった。 ・ ISC は、146 の各国・地域を代表するアカデミー組織、41 の各学問分野を代表する国際学術連合、及び 37 の提携団体が加盟する世界最大の学術団体 (2021 年 10 月現在)。 ・ 日本学術会議は、1949 年の ICSU への加盟、2014 年の ISSC への加盟に引き続き、ISC 発足の 2018 年から加盟。 ・ 国際機関・政府等との関わり：世界の学術界代表として、UNESCO 等の国連 5 機関、多国間政策協議 (UNFCCC、UNDRR、UN-Habitat、2030Agenda 等) へ参画。
当該国際学術団体の対応する分野の学術の進歩に貢献した事例		<p>ISC は分野横断の国際学術団体であり、特定の分野の研究に特化するものではなく、科学を世界の公共財として進化させ、あらゆるステークホルダーと共有することにより人類全体の進歩に資することを目的とし、下記のような活動を通じて世界の学術の向上に貢献している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ISC 主導及び共同運営体 (国連を含む 70 の国際機関) との研究プロジェクト 30 件を推進中 (2021 年 6 月現在)。 2. 科学の自由と責任を守る活動として全世界 11 人の有識者で構成される委員会を運営し、過去 3 年で 40 件の事案を審議、9 件の声明を发出。 3. 国連及び国際政策枠組へ科学の代表者として参画・インプット (2030Agenda for SDGs、UNFCCC・パリ協定、仙台防災枠組、国連 New Urban Agenda、IPBES 等) 15 件の国際研究プログラムを主導・共同運営 (CODATA、SCAR、INGSA、フューチャー・アース等)

政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について

<ISC の掲げるビジョンとミッション>

- ・ ビジョン：Advance science as a global public good（世界の公共財としての科学の推進）
- ・ ミッション：The global voice for science（科学を代表する声となる）
 - 世界的な課題への学術研究の促進
 - エビデンスに基づく公共政策、対話及び行動の増進
 - 科学における厳格性、創造性及び関連性の促進
 - 科学の自由と責任の保護、遵守

<ISC が取り組む事業>

2021年10月のISC総会において、ピーター・グラックマン新会長が率いる理事会が、任期中（2021年10月～2024年9月）に取り組む事業計画として Action Plan 2022-2024 が採択された。ISCのビジョンである『世界の公共財としての科学の発展』を実現するための事業計画で、以下の5つの事業分野に25のプロジェクトが設定されている。

Action Plan 2022-2024 5つの事業分野
1 : Global Sustainability “SDGs”を科学に向けられた最も緊急性の高い課題と位置付ける。
2 : Converging Science and Technology in a Digital Era ISCの関心事項は、AI等のデジタル・テクノロジーの適用分野、学際的な可能性、環境への影響、倫理、規制、ガバナンスの問題の考慮、社会的影響。
3 : Science in Policy and Public Discourse パンデミックで高まった政策への科学の重用は、新常态として気候変動などの課題においても継続。
4 : Changing Practices in Science and Science Systems 科学への取り組み方に関する課題（オープンサイエンスの課題、民間の科学技術投資、科学者の評価方法など）。
5 : Freedom and Responsibility in Science 科学における自由と責任の再定義の必要性（科学界における多様性や包摂性、科学の責任）。

更に、ISCの提携事業である国際的な科学イニシアティブとしては、15の研究プログラム・プロジェクトの主催・共催、国際的な政策枠組や政府間ネットワークへの積極的な参画が挙げられる。

	<p>国際的な科学イニシアティブの主催・共催</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ INGSА (政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク) ■ 研究プログラム ■ 科学委員会 ■ 国際データ機関 ■ 世界観測システム <p>研究ファンディングのマネジメント (資金源はスウェーデン SIDA 他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ T2S プログラム (社会科学系プロジェクト 12 件) ■ LIRA2030 (アフリカ向け 28 件) <p>国際的政策枠組や政府間ネットワークへの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 2030 Agenda SDGs ■ UNFCCC ■ 仙台防災フレームワーク ■ 国連 New Urban Agenda ■ 生物多様性および生態系多国間パネル (IPBES) ■ 国際保健機関 (WHO) ■ 全地球観測システム (GEOSs) ■ UNESCO <p>国際的な科学イベントへの参加、後援、共催</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>(1) 日本人役員等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年 7 月～2022 年 6 月：白波瀬佐和子会員が CFRS (Committee on Freedom and Responsibility in Science 科学の自由と責任に関する委員会) 委員。 ・ 2021 年 10 月～2024 年 10 月：小谷元子連携会員が次期会長 (President-Elect) のち科学と社会担当副会長 (Vice-President for Science and Society)。 ・ 同：白波瀬佐和子会員が財務担当副会長 (Vice-President for finance)。
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>ISCは全世界の科学者を代表する団体であり、地球規模で取り組むべき課題に対して、〈科学者間での連携〉、〈科学のための政策提言〉、〈政策のための科学的提言〉、〈科学研究へのファンディング〉等で世界の科学界を主導する存在である。日本を代表して日本学術会議がISCに加盟することで、科学に関する取り決めや、政策提言など様々な国際的取り組みに直接関与することができるばかりでなく、科学先進国の科学者として関係するプロジェクト等において中心的な役割を果たすこともできる。特に、2021年10月の総会で日本学術会議関係者 2 名が理事会オフィサー (全 5 名) に選出されたことにより全世界の学術界における日本の貢献への期待はかつてなく高い。</p>

	<p>以下は、24期ISC等分科会委員からの意見：</p> <p>① 日本学術会議がISCから得られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の科学技術の国際的な認知の促進。日本の科学者・技術者が国際的な研究課題にイニシアティブを獲得。日本のプレゼンス向上。 ● 世界の学術の動向を知り、国際的な協同体制に対応する。 ● グローバルな課題に対処していく際に求められる、多様な視点、必要な制度・政策上の対応などの指針を得る。 ● 日本学術会議とISCで議論されている課題は共通しており、議論の広さや深さの観点から学ぶことは多い。 ● 学際的な研究の動向に関する情報を得ることで、国内での研究の発展に寄与しうる。日本国内の情報を発信することで、学際的共同研究の機会が期待できる。 <p>② 日本学術会議がISCに貢献できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害防災科学・技術への寄与、環境保全課題への切り込み、里山・里海、欧米とは異なるアジア的視点に立つ科学技術、防災などのように、日本が他の国と比べてより多くの実績を持っている学問分野で、アジア、中南米などの災害多発地域に寄与。 ● 自然科学と人文・社会科学をともに含む日本学術会議の活動は、ISCの活動（たとえばAction Plan2019-2021）などと響き合う点も多い。 ● ISC組織の単位である国レベルの状況・情報はISCの存立理由の根幹となる重要な位置づけにある。日本学術会議へのISCによる期待は大きく、日本学術会議が貢献しうる可能性が大きい。 ● 学術的、人的、及び経済的貢献。組織運営に人的な貢献をすることで、ISCからの情報入手及び日本学術会議の情報発信がスムーズに行われるようになる。また、女性及び人文社会科学分野の理事の輩出は、ISCのみならず世界の学術界におけるジェンダー平等の取組み促進にもつながる。
<p>その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）</p>	<p>科学者の倫理に関するISCの基本方針について： <以下は、ISC定款第7条の仮訳></p> <p>7. 科学における自由と責任の原則：科学の自由で責任ある実践は、科学の進歩と人間と環境の幸福の基本である。このような実践には、そのすべての側面において、科学者の移動、結社、表現、コミュニケーションの自由、及び研究のためのデータ、</p>

	<p>情報、その他のリソースへの公平なアクセスが必要である。誠実さ、尊敬、公平性、信頼性、透明性を備えた科学研究を実施・伝達し、その利益と起こりうる害を認識し、あらゆるレベルで責任を負う必要がある。</p> <p>科学の自由で責任ある実践を提唱するにあたり、ISC は科学とその利益へのアクセスの公平な機会を促進し、民族的出身、宗教、市民権、言語、政治的またはその他の意見、性別、性同一性、性的指向、障害、または年齢などの要因に基づく差別に反対する。</p>
--	---

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	未定
日本人の役員立候補等の予定について	2021 年 10 月総会での理事会役員選挙に立候補し、前述のとおり選出された。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	未定

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去 5 年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2018 年 (開催地: フランス)、2020 年 (開催地: オンライン) ※ 臨時、2021 年 (開催地: オンライン)
	理事会・役員会等開催状況	ISC Governing Board 2018 年第 1 回～第 2 回 (開催地: フランス) 2019 年第 3 回～第 5 回 (開催地: フランス、北京) 2020 年第 6 回 (開催地: オンライン 3 月)、4 月、5 月、7 月に継続審議、第 7 回 (開催地: オンライン 9 月)、規約に基づき年間 2 回以上開催されている。
	各種委員会開催状況	ISC アジア太平洋地域委員会 2018 年第 25 回 (開催地: モンゴル) 2018 年第 26 回 (開催地: フィリピン) 2019 年第 27 回 (開催地: マレーシア) ISC 科学における自由と責任の委員会 (CFRS) 2019 年第 1 回 (開催地: フランス) ISC 「都市環境の変化と健康」科学委員会 (UHWC) 2020 年第 17 回 (開催地: オンライン) 2020 年第 18 回 (開催地: オンライン) 2021 年第 19 回 (開催地: オンライン) 2020 年新型コロナウイルスの影響により、2021 年以降もオンラインで随時開催

	研究集会・会議等開催状況	世界社会科学フォーラム (WSSF) 2018年 (開催地: 福岡)			
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2018年総会 (開催地: フランス) 会長・副会長・他5名 2021年総会 (開催地: オンライン) 会長・副会長 上記のほか、ISC Governing Board 及び、ISC アジア太平洋地域委員会へ植松光夫連携会員、ISC 科学における自由と責任の委員会に白波瀬佐和子第一部会員、隠岐さや香連携会員、ISC 「都市環境の変化と健康」科学委員会に中村桂子連携会員がそれぞれ参加			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況		役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
		ICSU 理事	2016～2018	巽和行	(24期) 会員・連携
		CSPR	2012～2018	春日文字子	(25期) 会員・連携
		CFRS	2015～2018	井野瀬久美恵	(25期) 会員・連携
		ISSC 理事	2010～2018	齋藤安彦	(25期) 会員・連携
		ISC-RCAP 委員長	2018～2020	植松光夫	(25期) 会員・連携
		CFRS 委員	2019/7～ 2022/6	白波瀬佐和子	(25期) 会員・連携
		UHWC 委員	2020～2024	中村桂子	(25期) 会員・連携
		ISC 次期会長・副会長 (科学と社会担当)	2021/10～ 2024/10	小谷元子	(25期) 会員・連携
		ISC 副会長 (財務担当)	2021/10～ 2024/10	白波瀬佐和子	(25期) 会員・連携
CFRS 委員	2022/10～ 2025/9	隠岐さや香	(25期) 会員・連携		
出版物	1 定期的 (年 1 回) 主な出版物名 年次報告書 2 不定期 () 主な出版物名				
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (https://council.science/publications)					

	<p>10 ヲ国を越える各国代表会員が加入している</p> <p>① 該当する 2. 該当しない</p>
	<p>(124 ヲ国)</p> <p>・ 各国代表会員名／国名</p> <p>National Academy of Sciences/United States</p> <p>The Royal Society/United Kingdom</p> <p>Académie des Sciences/France</p> <p>Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)/Germany</p> <p>National Research Council of Canada/Canada</p> <p>Consiglio Nazionale delle Ricerche/Italy</p> <p>Australian Academy of Science/Australia</p> <p>Royal Society of New Zealand/New Zealand</p> <p>China Association for Science and Technology (CAST) /China</p> <p>National Academy of Sciences of the Republic of Korea /Korea Republic of</p>